

2020 6

Welcome back
to the Tokyo Philharmonic



chie / 4.



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
ホールに満ちるオーケストラの響きを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

目次

2020年 6月
June 2020

プログラム	4
出演者プロフィール	5
楽曲紹介	6
Program	9
Artists Profile	10
Program Notes	11
東京フィルだより	15
News & Information	19
2020シーズン午後のコンサートラインナップ	21
ご支援の御礼とお願い	23
賛助会	24
チケットサービスより	29
東京フィルハーモニー交響楽団／楽団員一覧	31
理事・監事・事務局一覧	34

お願い： 演奏中はお手持ちの時計や電子機器のアラームが鳴らないようご注意ください。携帯電話、スマートフォン、タブレットなどの電子機器は電源をお切りくださいますようお願い申し上げます。

Attention: Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during the performance.

第938回オーチャード定期演奏会

終演予定16:00

6.21 (日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第134回東京オペラシティ定期シリーズ

終演予定20:00

6.22 (月) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第939回サントリー定期シリーズ

終演予定20:00

6.24 (水) 19:00開演 サントリーホール 大ホール

指揮：渡邊 一正

コンサートマスター：依田真宣

□ッシーニ：

歌劇『セビリアの理髪師』序曲 (約8分)

ドヴォルザーク：

交響曲第9番 ホ短調 Op.95『新世界より』(約45分)

- I. アダージョー アレグロ・モルト
- II. ラルゴ
- III. スケルツォ：モルト・ヴィヴァーチェ
- IV. アレグロ・コン・フォーコ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |

独立行政法人 日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura (6/21)



※当初の発表から出演者・曲目が変更となっております。

※公演時間は約1時間、「休憩無し」とさせていただきます。

※本公演においては公演中もご入退場いただけます。再入場・途中入場の際には入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※お帰りの際には、<ご来場者のご氏名・ご住所・電話連絡先>をご記入いただいた入場券はがきをロビーの回収箱に投函してお帰りください。ご協力をお願い申し上げます。

出演者プロフィール



©満田聡

指揮

渡邊 一正

Kazumasa Watanabe, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 レジデント・コンダクター

2015年4月から東京フィルハーモニー交響楽団レジデント・コンダクター。1995～2002年広島響正指揮者、1996～2015年3月まで東京フィル指揮者を歴任。第69回日本音楽コンクール作曲部門（管弦楽：東京響）と第77回同コンクール・ピアノ部門（管弦楽：東京フィル）でコンクール委員会特別賞を受賞。国内オーケストラではN響とは定期演奏会を始め多くの共演を重ね、また読売日響、日本フィル、札幌響、京都響、九州響、新日本フィル、群馬響などほぼすべての主要な日本国内のオーケストラへ定期的に客演。オペラでは新国立劇場でマスカーニ歌劇『友人フリッツ』、同劇場バレエ団『白鳥の湖』『くるみ割り人形』『ドン・キホーテ』などを指揮し、2006年『白鳥の湖』新演出の指揮でも大成功を収めた。サンクトペテルブルグ交響楽団の定期演奏会に客演するなど、海外でも活躍している。

ピアニストとしても8歳の時に東京響、東京フィルと協演。1987年～1989年まで渡欧しハンス・ライグラフ教授に師事。その後、東京フィル定期、広島響定期などで弾き振りを含むプログラムを行なうなど、ピアニストとしての才能も高く評価されている。

楽曲紹介

ロッシーニ (1792-1868)

歌劇『セビリアの理髪師』序曲

解説＝堀 朋平

19世紀最初の20年は、なんといってもロッシーニの時代である。市民が力をつけるに伴って、貴族的で壮大なオペラ・セリアはみるみる時代遅れになった。これを座して見守る同時代人を尻目に、ジョアキーノ・ロッシーニ(1792-1868)は、オペラ・ブッフアの活力をセリアに注入し、ヴェルディに続く道をみごと準備したのだった。彼は1815年頃にはイタリア全土を席卷し、32歳にして最終地パリに破格の待遇で迎えられ、5年後には引退。生涯のオペラは39作を数える。

ロッシーニの生き方は並はずれて潔かった。『チェネレントラ』を最後に25歳でブッフアの筆を折ると、6年間かけて築いたナポリでの地位をあっさり捨てて国外に漕ぎ出し、フランス語の大掛かりなグランド・オペラに最後の力を注ぐ。そして後半生をまるまる、優雅な引退生活にあてたのだ。

ブッフアのキャリアがひととき短かったこともあり、セリアの復権にこそロッシーニ最大の功績はあるとも言えるが、汗まみれの新時代に魅せられたことは疑いない。フランスの鬼才ボーマルシェの『セビリアの理髪師』(1775年初演)は、そんな新時代を象徴する戯曲だった。色あせた貴族を茶化し、これを手玉に取る知恵者フィガロの活力を称えた問題作である。

そのイタリア語翻案が人気作曲家パイジェットの音楽で当たりをとると(1782年)、これに触発されたモーツァルトが続編『フィガロの結婚』で一世を風靡(1785年)。この流れにロッシーニ作品がくる(1816年、ローマ初演)。先輩作曲家への配慮から当初はタイトルを『アルマヴィーヴァ』としたにもかかわらず、初演はパイジェット派の妨害で台無しになったが、「現存するブッフアの中でいちばん見事」というヴェルディの賛辞(1898年)が、その先駆性を証している。

わずか13日で仕上げたと言われ、序曲は自作『パルミラのアウレリアーナ』(1813年)から転用された。ヴァイオリンとヴィオラ(ピッコロが加わる版もある)がオクターヴ

で重なる切ないこのメロディは、ロッシーニの代表作『セビリアの理髪師』序曲として今日よく知られている。

(2018年11月定期演奏会プログラム「楽曲紹介」より一部改変・再録)

【作曲年代】1816年 【初演】1816年2月20日、ローマ

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル)、弦楽5部

ほり・ともへい／1979年生まれ。国立音楽大学・西南学院大学ほか講師。専門は音楽美学。2013年、東京大学大学院・後期博士課程修了。博士学位論文にて日本シェリング協会研究奨励賞を受賞。著書『〈フランツ・シューベルト〉の誕生——喪失と再生のオデュッセイ』（法政大学出版局、2016年）

ドヴォルザーク(1841-1904)

交響曲第9番 木短調 Op. 95『新世界より』

解説＝山田治生

チェコの国民的作曲家、アントニン・ドヴォルザーク(1841-1904)は、ニューヨークのナショナル音楽院の創設者であるサーバー女史から同音楽院の院長就任の要請を受け、1892年9月、その招きに応じてニューヨークに渡った。ナショナル音楽院は当時として珍しい人種差別をしない進歩的な学校であり、ドヴォルザークはここで黒人霊歌やネイティブ・アメリカンの音楽に出会ったという。そしてそのことがアメリカ時代のドヴォルザークの創作(この交響曲第9番『新世界より』、チェロ協奏曲、弦楽四重奏曲第12番『アメリカ』など)に大きな影響を与えた。交響曲第9番には、五音音階や付点と逆付点を組み合わせたリズム、持続低音などの民俗音楽的な要素が採り入れられている。また、この作品には、故郷から遠く離れた彼のノスタルジーが色濃く表れている。『新世界より』というタイトルの「新世界」とはもちろんアメリカのことを指すが、「より」という言葉には、この交響曲が、ドヴォルザークが異国から祖国に書いた手紙のような作品であることを示しているように思われる。

第1楽章 アダージョー アレグロ・モルト。アダージョの序奏に続くアレグロの主部は、ホルンによる長短短長のリズムからなる第1主題で始まる。

第2楽章 ラルゴ。イングリッシュホルンの哀愁を帯びた旋律は「家路」のタイトルで歌われることもある。中間部も心にしみるような切実な音楽。クライマックスではトロンボーンに第1楽章の第1主題が回帰される。その後、音楽は静かになり、ヴァイオリンとチェロの独奏も現れる。

第3楽章 スケルツォ：モルト・ヴィヴァーチェ。リズムックで快活なスケルツォ楽章。2つのトリオの素朴なメロディが魅力的。トリオやコーダで第1楽章の主題が現れる。

第4楽章 アレグロ・コン・フォーコ。短い序奏のあと、金管楽器が力強く第1主題を吹く。第2主題はクラリネットが提示する柔和な旋律。その後、第1楽章第1主題の特徴的なリズムが低弦楽器やトロンボーンに現れ、第2楽章の「家路」の旋律の断片が木管楽器や金管楽器で歌われ、第3楽章の主要主題が絡むなど、それまでの前3楽章の主題が少しずつ回帰して、有機的に結びつき、壮大なフィナーレが築かれていく。

(2019年7月定期演奏会プログラム「楽曲紹介」より一部改変・再録)

【作曲年代】 1893年 【初演】 1893年12月16日 ニューヨークのカーネギー・ホールにて。アントン・ザイドル指揮、ニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団による

【楽器編成】 フルート2 (2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(トライアングル、シンバル)、弦楽5部

やまだはるお(音楽評論家)／1964年、京都市生まれ。1987年、慶應義塾大学経済学部卒業。著書に、小澤征爾の評伝である『音楽の旅人』、『トスカニーニ』(以上、アルファベータ)、編著書に『戦後のオペラ』(新国立劇場情報センター)、『オペラガイド(大人の観劇)』(成美堂出版)、訳書に『レナード・バーンスタイン ザ・ラスト・ロング・インタビュー』(アルファベータ)などがある。

The 938th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. June 21, 2020, 15:00 at **Bunkamura** Orchard Hall

The 134th Tokyo Opera City Subscription Concert

Mon. June 22, 2020, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 939th Suntory Subscription Concert

Wed. June 24, 2020, 19:00 at Suntory Hall

Kazumasa Watanabe, conductor

Masanobu Yoda, concertmaster

Gioachino Rossini:

Overture from the Opera "The Barber of Seville" (ca. 8 min)

Antonin Dvořák:

Symphony No. 9 in E minor Op. 95,

"From the New World" (ca. 45 min)

I. Adagio - Allegro molto

II. Largo

III. Scherzo. Molto vivace

IV. Allegro con fuoco

21
June

22
June

24
June

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by

the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (June 21)



- The conductor and the program have been changed from the original announcement.
- As there will be no intermission during the concert in order to preserve social distancing, entering and exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter or reenter in the middle of the concert, we may escort you to a seat different from the one you were originally assigned.
- Please write your name/address/phone number in the permission post card, and post it in the collection box in the lobby before you leave the concert. We would sincerely appreciate your cooperation.

Artists Profile

Kazumasa Watanabe conductor

Resident Conductor of
the Tokyo Philharmonic Orchestra



©Satoru Mitsuda

Born in Tokyo. Since April 2015 he has been Resident Conductor of Tokyo Philharmonic Orchestra. Watanabe has served as Resident Conductor of Hiroshima Symphony Orchestra from 1995 to 2002, and Conductor of Tokyo Philharmonic Orchestra from 1996 to March 2015. He made debut with NHK Symphony Orchestra in 1998 and since then he has regularly conducted the orchestra in subscription concerts and others. Other Japanese orchestras he regularly conducts are Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Japan Philharmonic Orchestra, New Japan Philharmonic, from all of which he has won trust on his musicality and conducting. He is also remarkable for conducting operas and ballets. He has conducted Mascagni's *L'amico Fritz* at the New National Theatre, Tokyo, *Swan Lake*, *Nutcracker*, and *Don Quixote* for the ballet company of the same theatre. He is also making international career conducting a subscription concert of St. Petersburg Symphony Orchestra in 03/04 season.

He performed a Haydn piano concerto as a pianist with Tokyo Symphony Orchestra and Tokyo Philharmonic Orchestra at the age of 8. From 1987 to 1989 he studied piano at the Music Academy of Darmstadt, and in Prof. Hans Leygraf's master class. Since returning to Japan he has performed Beethoven's piano concertos No. 3 and No. 5 "Emperor", programs of Ravel, Mozart, some of which he conducted and played the piano in subscription concerts of Tokyo Philharmonic, and with Osaka Philharmonic Orchestra and Sapporo Symphony Orchestra. Watanabe's talent as a pianist is also appreciated.

Program Notes

by April L. Racana

Gioachino Rossini (1792-1868) Overture from the Opera “The Barber of Seville”

Rossini had composed nearly three-dozen operas by the time he was about the same age. During the years 1812-1819 he had written twenty-eight of these, though he had begun creating his first works for stage at the mere age of eighteen. In 1823, Rossini moved to Paris where he was under contract by the French government to compose for the Théâtre Italien as well as the Opéra. It would be there, in 1829, that he would write the last of his operatic works, “William Tell”, originally written and entitled in French as *Guillame Tell*.

“The Italian Girl in Algiers” (1813) was one of the first operas composed before his move to Paris, and is believed by some scholars to have determined the form for many of Rossini’s overtures to follow, with its dramatically slow introduction that leads into a more energetic and exciting *Allegro*. Both this work and “Cinderella” were composed in a brief amount of time, which was at least partly due to other work that had been commissioned, which needed to be completed following the success of “The Barber of Seville.” “Cinderella” was ultimately received warmly as well, and led to it becoming one of the most popular of Rossini’s operas along with “The Barber of Seville” and “The Italian Girl in Algiers.”

“The Barber of Seville” (1816) utilized recycled musical material for its Overture, which was a relatively common practice of the time, and which was added following the premiere when revisions were made. Originally composed for an earlier opera “*Aureliano in Palmira*”, Rossini is believed to have used this material several times before finally settling on its use for the introduction to ‘Figaro’s’ opera. The result is that no material from the opera itself can be found in the Overture, but instead sets the tone for the coming scenes with its sense of dramatic anticipation for the ‘*opera buffa*’.

21
June

22
June

24
June

Following the composer's usual form, the Overture opens with a slow introduction. The main section presents a quicker pace with two repeated themes, the second lyrical theme leading to the famous Rossini 'crescendo' each time, highlighting not only an increase in dynamics, but an increase in the number of instrumentalists performing, as well as higher pitch levels and faster rhythmic patterns. Becoming one of the most well-known opera overtures, Rossini's musical themes from this work found a home in popular culture, including Woody Woodpecker's version (1944) as well as Bugs Bunny's variation "The Rabbit of Seville" (1949). Even television sitcom's "Seinfeld" couldn't resist the Rossini reference in 1993 during an episode that involved a barber.

After moving to Paris, Rossini would not compose another opera after *William Tell* stating, in hindsight, that "retiring in time requires genius too" when discussing his early retirement with the painter Guglielmo de Sanctis in 1862. Although he would come out of semi-retirement to compose in other genre, including his sacred work *Stabat Mater* (1832/rev. 1841), as well as some works for piano, Rossini would allow his operatic works to remain as some of his final works for the stage, with this Overture from the *Barber of Seville* continuing to be an audience favorite to this day.

(Revised and republished from the program notes of November subscription concerts in 2018.)

Work composed: 1816 World premiere: 20th February, 1816, Rome
Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, 2 trumpets, timpani, percussion (bass drum, cymbals), strings

Antonin Dvořák (1841-1904)
Symphony No. 9 in E minor Op. 95,
“From the New World”

Dvořák as a composer is perhaps most renowned for his Ninth Symphony, often dubbed the ‘New World Symphony’. Yet he was capable of composing not only symphonies, but in virtually any genre, including opera, symphonic poems, concert overtures, dances and marches, and concertos and chamber music, as well as works for piano and voice. Many of these works were written as a result of commissions, which led one of his publishers, Simrock, to comment that Dvořák could ‘pull melodies out of his sleeve.’

In spite of this reputation, Dvořák took great pride in working out every idea to its fullest, studying the master composers who preceded him in-depth and setting a high standard for himself:

“To have a fine idea is nothing special. The idea comes of itself, and if it is fine and great, then that is not because of the person who has it. But to develop the idea well and make something great of it, that is the hardest part – that is art!”

For a number of years, many people did not even realize Dvořák had composed any symphonies prior to his last five, as his earlier works remained unpublished until much later. But each of his symphonies displays the developments and explorations of a composer going through various stages as an artist.

Dvořák is also renowned as one of the top composers of the nationalistic movement from Czechoslovakia. However, it was perhaps most through Brahms’ interest in his music (who adjudicated the Austrian State Stipendium to which Dvořák had entered fifteen compositions) that he first achieved international attention. In 1892, Dvořák accepted the invitation of Mrs. Jeannette Thurber, and became director of the National Conservatory of Music in New York. She had requested that he write an opera based on *Hiawatha*, and although this never came to fruition, it is said that parts of the Ninth Symphony include musical references to his

21
June22
June24
June

“projected composition (based) on (Longfellow’s) *The Song of Hiawatha*.”

The first movement begins with a slow introduction, leading into the horns’ announcement of a more rhythmic theme, which foretells the dramatic expression found throughout the work. Some have suggested that with the composer’s interest in spirituals, perhaps his exposure to various melodies of that genre were an inspiration, as one may hear a brief reference to “Swing Low Sweet Chariot”. The *Largo*, well-known among audiences, is said by Dvořák to have been suggested by the Indian “burial in the forest” in *Hiawatha*.

Another scene from *Hiawatha* is said to have inspired the third movement, that of the “festival in the forest” where Pau-Puk-Keewis dances. And the final movement, besides introducing its own strong motto theme, includes a blending and review of the main themes of the previous movements, for which Dvořák has sometimes been criticized. But no matter where his creative influence originated, in his own words, this symphony brings “impressions and greetings from the New World...”, and as such, “...the influence of America can be felt by anyone who has ‘a nose.’”

(Republished from the program notes of July subscription concerts in 2019.)

Work composed: 1893 **World premiere:** World premiere: December 16, 1893 at Carnegie Hall in New York

Instrumentation: 2 flutes (2nd doubling on piccolo), 2 oboes, English Horn, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (triangle, cymbals), strings

April L. Racana / As a Music Specialist, Ms. Racana completed her undergraduate studies at the University of Illinois, Champaign-Urbana (BS/Piano Pedagogy) and her graduate studies at San Francisco State University (MA/Music). In addition, she was accepted as part of a post-graduate fellowship at Northwestern University’s Bienen School of Music, as well as for the Japan Studies Program at International Christian University. Having been a Music Specialist teaching both in California for nearly a decade, and at Nishimachi International School where she taught for more than 25 years, she feels she has learned as much from her many students as she has taught them over more than three decades, and especially appreciates the opportunity to share her musical insights to an even wider community, as program annotator for the TPO.

東京フィルだより

Welcome back
to the Tokyo Philharmonic!

東京フィルメンバーからの
メッセージをご紹介します。

今日は東京フィルの演奏会にお越しいただき、ありがとうございます。みなさまと同じように、音楽を愛してやまない者として、コンサートという時間を再び共有出来る事を心から嬉しく思うとともに、ご来場に深く感謝いたします。

コロナ禍で演奏会が次々と中止となるなか、物理的な距離を保つ一方で、心と心が離れることのないよう、無関心にならず決して思いやりを忘れないよう、一表現者として発心し、日々祈っておりました。そして、音楽とは、芸術とは何かを思索、自問しておりました。

芸術とは、人と人とを結びつけるものです。人間が取り得る、最も深いコミュニケーションの一つです。

私たちの活動が、お客様を通じて、世界に届きますように。時空を超えて美しい未来へとつながりますように。今日はご来場ありがとうございました。(コンサートマスター 近藤薫)

コロナウイルスの拡大により、世界がこの数か月であっという間に変わってしまいました。

ニュースやネットを見る度に、様々な感情が沸き起こり、とても複雑な気持ちで毎日を過ごしておりました。この先のことを思うと、まだま

だ不安が募るばかりです。

ですが、ここからまた希望をもう一度持って進んでいくためにも音楽は絶対に必要です。

東京フィルハーモニー交響楽団がその大切な1つのピースとなるよう、気持ちを込めて誠心誠意、この先も演奏して参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。(コンサートマスター 依田真宣)

当初は、これから先これ程長い休みはもうないだろうと思い、全部やりたいことはやり切ろうという前向きな気持ちで自粛期間に臨みました。掘り下げたかった基礎練習やソロの曲の練習、音楽に関係ない勉強、お菓子作りなど、色んなことに挑戦しました。ただ、先の見えない自粛期間が長引く中で気持ちが減入っていき、早くオーケストラで弾きたい気持ちがどんどん強くなりました。

また演奏会の場に戻ってこられて、本当に嬉しいです。(ヴァイオリン 巖築朋美)

今回のコロナ禍により、2か月以上にわたり家で過ごしました。

この時間を自分のために使う事にしよう、と

Welcome back
to the Tokyo Philharmonic!

やり残していた曲や、新しい楽器に挑戦するなどしておりました。

現在中心となっている配信という形にももちろん良さはありますが、やはり生の音、響き、アンサブルの息遣いは、特別なものだ改めて感じています。

たくさんのお客様と安心して同じ空間で音楽を共有できる日が戻ってくる事を、心から願っています。(ヴァイオリン 高木祐香)

今年に入ってだんだんとコロナウイルス感染者が出始め、客席にマスクを付けていらっしゃるお客さんが増えてきた頃から不穏な空気が流れ始めてきましたが、勢いと共にスピードが増してきて、公演がキャンセルとなっていったのは、2月末あたりからでした。この軟禁?緊張状態の中でできることは?と毎日自問し、気持ちを落ち着かせるためにも出来るだけ丁寧に生活することだと思い、今に至っております。(ヴァイオリン 中澤美紀)

譜読みに追われる日々が突然白紙に。

6月に二期会公演予定だった『ばらの騎士』や、基礎練習目的でBeethovenの協奏曲等をじっくり練習出来たのは至福の時間でした。家の棚は過去の公演の譜面の宝庫で、結果

やはり譜読みに追われました!

合間に散歩。近所にこんなに緑道が有り様々な花が咲く事を初めて知りました。料理、家の整頓etc…充実した日々でした。

混沌とした世の中ですが、多様な価値観同士認め合える世の中になりますように。(ヴァイオリン 吉田智子)

自粛期間中は、いつか弾いてみたいと思っていた曲に取り組んだり、演奏技術を見直したりと1人で音を出す日々でしたが、先が見えない、仕事ができない不安から練習が手につかないこともありました。自分には何が出来るのかと考え、友人たちとリモートアンサンブルも行いましたが、オーケストラのサウンドに代えられるものはありません。再びこのように大きな響きの中で演奏できることに、心から喜びを感じます。(ヴァイオリン 渡邊みな子)

今回の開催にご尽力賜りました皆様。

手間を厭わずご協力顶けました、お客様。

ここまで、こぎ着けて下さった、事務局。

感謝感謝です。

よい時間を共有できますように。

(ヴィオラ 古野敦子)



Welcome back
to the Tokyo Philharmonic!

今回のコロナ禍で私にとっての最大のイベントはリモート演奏です。

東京フィルとジュニア達との「運命」を筆頭に何人かの仲間たちともリモートアンサンブルを楽しみました。

既に録音された演奏を聴きながらそれに合わせて弾いた1パートを録画して重ねるのですが、こんな状況にでもならなければなかなかやらない試みです。

アンサンブルをするときでもソロのときと同様に自分の中に確たる音程やビートが必要で、ただ人に合わせているだけでは形にならないということをわかっているつもりでしたが改めて思い知らされました。

大変面白い試みであると同時に大いに勉強させられました。(チェロ首席 渡邊辰紀)

3.11の後何も出来ずに落ち込む私にある大先輩が「今我々音楽家は何の役にも立たない。けれど必ず音楽が必要とされる時が来るからその時の為に腕を磨くんだよ」と。その言葉を胸に自分に出来ることを粛々と積み重ねる日々でした。未だ不安や制約もありますが、生の音楽を通して皆さまとこの瞬間を共に出来ますこと、心より嬉しく思います。ここで感じた想いが皆様の大切な方へも繋がっていきます

ように。感謝を込めて。(コントラバス 田邊朋美)

これまで本番後は何かと理由をつけて飲み会でした。素晴らしい曲に乾杯、ナイスプレイの同僚に乾杯、厳しかったマエストロに完敗!

コロナ禍中規則正しい生活を心掛けました。朝5時半起床、レッスン室の床拭き、ヘソクリの確認、犬散歩、お昼のお弁当作り。電波時計を睨み8時ジャストに音を出すのが快感。夕方にはお風呂を沸かして一番風呂。ストレス発散にはインターネットで仮想世界旅行、……でも最後はやっぱりガブ飲みワイン。(フルート首席 吉岡アカリ)

月並ですが、家族のあり方、音楽家としての自分のあり方を深く問われる三か月間となりました。物心ついた頃から「ママ、今日夜ご飯は一緒?」と訊くのが日課だった中学生の娘にとっては、24時間ベッタリ母と一緒に過ごすのは初めての経験。音楽家としては、買いためただけになっていた練習曲を片っ端からおさらいしながら、姿勢や指の形を改めて見直す又とない機会となりました。勿論いつも支えて下さるお客様との再会を心待ちにしていました!(オーボエ 杉本真木)

ようやく本番を迎えられた事、嬉しいです。事務局、ホール関係者の皆さん、そしてお客様に感謝です。4か月に渡るお休みの中、自分としての心配は、感染しない事、演奏能力を維持する事でした。始めのうちはYouTubeに演奏動画をアップする事でモチベーションを保てていましたが、それも気が入らなくなり練習量も減って来て趣味の時間が増えて来ました。そんな折、6月定期が実現しそうだと連絡が来て練習にも身が入る様になりました。まだまだ本番回数は少ない期間が続くと思います



©上野隆文

が舞台で仲間と演奏出来る喜びをかみしめながら一つ一つの本番を大切にしていきたいと思っています。(クラリネット首席 万行千秋)

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。東京フィルもステージ活動自粛に入り3か月が過ぎました。しかしようやく光明も見えこの定期演奏会を迎える事が出来ました。このような長きに渡る活動停止はもちろん初めてです。

昭和30年代に生まれアナログからCD、DVDなどのデジタル化の恩恵を受けたものの、人との交わりを否定するかのような新型コロナの出現はライブ演奏の意味を考える機会となりました。

改めてステージに立てる事の貴重さを認識すると同時に、お客様と同じ空間で生命感や躍動感を共有出来ればこの上ない幸せと考えております。(クラリネット 林 直樹)

家の中で、楽器の練習以外に何をしようかと考えながら、おやつに手が伸びていました。免疫力を上げたいのに、体脂肪率がどんどん上がり、これではダメだと、演奏のクオリティを上げるためにもダイエットを決心しました。日々の食事を見直し、毎日楽器の練習に加え、筋トレや運動をしまくり、お酒は飲まず…ついに、体脂肪が下がり筋肉量が増え、9キロの減量に成功! 楽器をいくら吹いても疲れなくなりました。

オーケストラのメンバーと演奏を楽しめる日を心待ちにしています。(ファゴット首席 チェ・ヨンジン)

何処にゴールがあるのか分からない中、自分のやるべき事を考え、まずは体調管理、食事、練習など、日々シンプルに、なるべく淡々と過ごしました。でも、最初のリハーサルでは久々のオーケストラの響きの中に入れると思うと、大興奮してしまい、想像しただけで泣きそうでした。出来るだけ、熱い想いを内に秘めて演奏した

いと思います。まだまだ闘っていらっしゃる方々にも想いを寄せて。(ホルン 田場英子)

次々と演奏会が中止になってステイホームが始まり2か月ほど経ったある日、家でR.シュトラウスの「アルペン交響曲」のCDを聴いていた時のこと。

金管楽器が吹きっぱなしで、めちゃくちゃにキツくていつも泣きそうになりながら演奏している部分になると「最近こういつキツイ思いをしてないな…。ああ、早くオーケストラで吹きたい」とふと思い、涙が溢れてしまいました。

再開後の最初の演奏会では曲が終わったら泣いてしまうかもしれません。演奏中には泣かないように集中します。(トロンボーン 石川 浩)

2月中旬の本番後からの自粛生活でした。出口の見えない闘いに腐りそうになりましたが、思えばハタチから47歳の今まで突っ走ってきたので、気持ちを切り替えメンテナンス&リフレッシュ期間としました。ジムが感染防止のため通えなくなり、仕方なく外ランニングに切り替えたらどっぷりハマってしまいました。走りながら本を「聴く」アプリを使って、たくさん読書をしています。当たり前のことに感謝できた期間でした。(チューバ 大塚哲也)

世界中が同時にひとつのことを考えながら暮らし、悩み、助け合い、共に生きた、稀有な時間だったと思います。自分の演奏についてもたくさん考える時間がありました。ウィズコロナ時代、音楽の在り方がどのように変化していくのか興味深くもあります! 自粛期間中、離れて暮らす親友たちとのオンラインでの交流はとても楽しい時間でした。「今まで何で気付かなかったんだろう、このスタイル!」この先の日常になりつつあります。(パーカッション 船迫優子)

News & Information

第一ヴァイオリン 二宮純(1984年入団)が2020年4月末をもって
定年退職いたしました。

「4月末日を持ちまして東京フィルを退職いたしました。

最後の仕事は3月9日にオペラシティで行われた題名のない
音楽会の収録でした。その収録も既にな観客で行われまし
たが、その後のコロナウイルス感染拡大の為に全ての仕事が
キャンセルになり何もしないままの退団。思わぬ形で退団と
なっていました。

35年の在団の中で様々なマエストロやソリストとの共演を重
ねましたが一つ一つが大切な思い出となっています。

合併後は特にマエストロ チョン・ミョンフンと重ねたコンサートの積み重ねが演奏家と
して大切な大切な財産となっています。

今オーケストラは大変な苦境に面していますが音楽を愛する人々がいらっしゃる限り
オーケストラは生き抜いて行けるものと思っています。私も負けずにまだまだ音楽の道
に進んで行こうとおもっております」。

>コメント全文はウェブサイトからご覧いただけます。

<https://www.tpo.or.jp/information/detail-20200520-02.php>



ファゴット首席奏者 大澤昌生(1990年入団)が2020年4月末をもって
定年退職いたしました。

「この4月いっぱい定年退職をしましたファゴット奏者の大
澤です。東京フィルと合併する前の新星日響の時代から、楽
員・事務局員のみなさんに支えられながらの32年間を終える
ことが出来ました。しかし、まさかこのような状況下でこの日を
迎えるとは、考えもしませんでした。そしてこんな状況だからこ
そ、今まで一番自分を支えてくれたのは他ならぬ聴衆の方々、
貴重な時間とお金を割いて演奏会場に足を運んでくださった
方々だったのだと心から実感し感謝しています。聴衆の皆様、同僚たち、事務局員の
みなさん、心から感謝いたします。どうか感染にはくれぐれも注意なさって、この困難
な時期をお互い乗り越えていきましょう。 どうも有難うございました」。

>コメント全文はウェブサイトからご覧いただけます。

<https://www.tpo.or.jp/information/detail-20200510-01.php>



東京フィルメンバー CD情報 SDA48「びおらざんまい」

ヴィオラ首席奏者・須田祥子が主宰するヴィオラだけの演奏集団「SDA48」のデビューCDが6月に登場しました。

「ヴィオラのための音を聴いたことがありますか？人の声に最も近い楽器とも言われるヴィオラ。オーケストラの中だと地味で気づいてもらえないことも…。世界的にも希有な、ヴィオラのための演奏にこだわり続けている、ヴィオラ演奏集団「SDA48」によるデビューアルバムがついに発売されます！謎に包まれている「ヴィオラ」、その、ヴェールが脱がされる…?」(須田)



SDA48「びおらざんまい」

収録曲 M. プルッフ／編曲: 飯田香: ヴィオラとオーケストラのためのロマンス
J. S. バッハ／編曲: 飯田香: ブランデンブルグ協奏曲 第6番 BWV1051
O. レスピーギ／編曲: 飯田香: リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲
出演 須田祥子(東京フィル首席奏者)、加藤大輔(東京フィル副首席奏者)、
大島亮(神奈川フィル首席奏者)他 総勢13名、全員ヴィオラ
定価 ¥3,000+税
品番 TTOC-0042
制作・発売元 ティートックレコーズ <https://t-tocrecords.ocnk.net/product/257>



今後の定期演奏会／午後のコンサートについて

東京フィルでは、ご来場の皆様や出演者の安全を最優先に、演奏会場等での感染拡大防止のための環境整備を行うため、今後の「定期演奏会」並びに「午後のコンサート」チケットの販売を一時休止しております。また、今後、状況により、演目・出演者、開演時刻などが変更となる可能性がございます。

新たな決定事項は、随時、東京フィルウェブサイトやダイレクトメール等でご案内をさせていただきます。

お客様にはご不便をおかけいたしまして申し訳ございませんが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

お問合せ

東京フィルチケットサービス 03-5353-9522(平日10時～16時・土日祝休)

ウェブサイト <https://www.tpo.or.jp/>

2020シーズン 午後のコンサート 「夢見る頃を過ぎても」

午後の
コンサ
ート
ライ
ンナ
ッ
プ



東京フィルでは、ご来場の皆様や出演者の安全を最優先に、演奏会場等での感染拡大防止のための環境整備を行うため、「午後のコンサート」チケットの販売を一時休止しております。また、今後、開演時刻が14時から変更となる可能性がございます。

新たな決定事項は、随時、東京フィルウェブサイトやダイレクトメール等でご案内をさせていただきます。

■ 問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (平日10時～16時・土日祝休)

URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

渋谷の午後のコンサート Bunkamuraオーチャードホール

※開演時刻が14時から変更となる可能性がございます。

第6回

7月2日(木)

〈第2の国歌を知っていますか?〉

指揮とお話：尾高忠明

ピアノ：高木竜馬*

エルガー／行進曲『威風堂々』第1番

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番*

シベリウス／交響詩『フィンランディア』

J. ヴィリアムズ／組曲『スター・ウォーズ』



第4回 渋谷の午後のコンサート 延期公演

8月11日(火)

〈コパケンの新世界〉

指揮とお話：小林研一郎

ギター：村治佳織*

ベートーヴェン／劇音楽『エグモント』序曲

ロドリゴ／アランフェス協奏曲*

ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』



東京
フィル
だよ
り

2020 シーズン

第7回

9月8日(火)

〈ウィーンの森で〉

指揮とお話：小林研一郎

ナビゲーター：田添梨穂子

J. シュトラウスII／

ワルツ『美しく青きドナウ』

ワルツ『ウィーンの森の物語』

J. シュトラウスII、ヨーゼフ・シュトラウス／

ピチカートポルカ

ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』



第8回

11月25日(水)

〈あの名曲アルバム〉

指揮とお話：円光寺雅彦

ピアノ：清塚信也*



ペルリオーズ／劇的物語『ファウストの劫罰』より

『ラコッツィ行進曲』

ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲

ガーシュウィン／ラブソディ・イン・ブルー*

ポンキエツリ／

歌劇『ラ・ジョコンダ』より『時の踊り』

ペルリオーズ／幻想交響曲より

平日の午後のコンサート 東京オペラシティコンサートホール *託児有

※開演時刻が14時から変更となる可能性がございます。

第19回

8月4日(火)

〈夏のバットゥストーニ〉

指揮とお話:

アンドレア・バットゥストーニ

ショスタコーヴィチ／祝典序曲

アルビノーニ／アダージョ

プッチーニ／歌劇『マノン・レスコー』間奏曲

外山雄三／管弦楽のためのラプソディー

ファリャ／バレエ音楽『三角帽子』より“粉屋の踊り”

～終曲 ほか



第20回

10月14日(水)

〈夢見る頃を過ぎても〉

指揮とお話: 角田鋼亮

ヴァイオリン: 前橋汀子*

ワーグナー／

楽劇『ニルンベルクのマイスタージンガー』より

第1幕への前奏曲

エルガー／愛の挨拶*

マスネ／タイスの瞑想曲*

サラサーテ／ツィゴイネルワイゼン*

ウェーバー／歌劇『魔弾の射手』序曲

ワーグナー／歌劇『タンホイザー』序曲



休日の午後のコンサート 東京オペラシティコンサートホール *託児有

※開演時刻が14時から変更となる可能性がございます。

第84回

7月23日(木・祝)

〈勝利への行進〉

指揮とお話: 尾高忠明

今井光也／オリンピック東京大会ファンファーレ

古関裕而／東京オリンピック・マーチ

ネッケ／クシコス・ポスト

カバレフスキー／道化師のギャロップ

ロッシーニ／歌劇『ウィリアム・テル』序曲

ベートーヴェン／劇音楽『アテネの廃墟』第4曲

「トルコ行進曲」

エルガー／行進曲『威風堂々』第1番 ほか



第85回

9月6日(日)

〈ウィーンの森で〉

指揮とお話: 小林研一郎

ナビゲーター: 田添菜穂子

J. シュトラウスⅡ／

ワルツ『美しく青きドナウ』

ワルツ『ウィーンの森の物語』

J. シュトラウスⅡ、ヨーゼフ・シュトラウス／

ピチカートポルカ

ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』



第86回

11月22日(日)

〈夢見る日々〜いい夫婦の日〜〉

指揮とお話: 円光寺雅彦

ソプラノ: 市原 愛*

メンデルスゾーン／

劇音楽『真夏の夜の夢』より『結婚行進曲』

J.S. バッハ＝グノー／アヴェ・マリア*

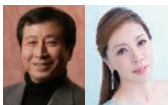
ヘンデル／歌劇『セルセ』より『オンブラ・マイ・フ』*

ベルリオーズ／劇物語『ファウストの劫罰』より

「ラコッツィ行進曲」

ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲

ベルリオーズ／幻想交響曲より ほか



第87回

2021年1月11日(月・祝)

〈夢のつづき〉

指揮とお話: 三ツ橋敬子

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』より『モルダウ』

J. シュトラウスⅡ／トリッチ・トラッチ・ポルカ

ドヴォルザーク／

交響曲第9番『新世界より』より第4楽章 ほか



ご支援の御礼とお願い

今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2月下旬より東京フィルが出演する演奏会の全てが中止・延期となりました。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。そのような中、たくさんの励ましのお言葉とともに、中止公演のチケット払戻し辞退によるご寄附や、銀行振込等による温かいご支援をいただきました。心よりお礼申し上げます。

このたび4か月ぶりに定期演奏会の再開には漕ぎ着けたものの、感染症拡大防止の観点から、当面の間は規模を縮小しての開催が見込まれております。

皆様のご寄附が大きな力となります。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけますら幸いです。1万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(本冊子27ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行 (郵便振替)	00120-2-30370	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	

※ 寄附金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入して、下記送付先へご送付ください。寄附申込書の書式については、下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。本日の会場でもお配りしております。

寄附申込書のダウンロードはこちらから

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【寄附申込書 送付先／お問合せ】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523
Tel 03-5353-9521(土日祝日を除く10時～18時)

本日は、新型コロナウイルス感染防止に伴う各種制限の中、東京フィルハーモニー交響楽団の演奏会にお越しくださいまして誠にありがとうございます。

4か月ぶりの公演再開にあたり、皆様に安心して演奏をお楽しみいただけるよう、できる限りの施策を講じて運営してまいります。楽団として大変苦しい時期ですが、多くの方々から温かなご支援やお声がけいただいたことが、皆一同とても大きな支えになっております。心より御礼申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、法人並びに個人（パートナー会員）の皆様のご寄附により支えていただいております。ここにそのご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニー（株）	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IHI	代表取締役社長 満岡 次郎	(株)インターテキスト	代表取締役 海野 裕
(株)アイエムエス	取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株)	代表取締役社長 片野坂 真哉
相澤内科医院	理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ	代表取締役社長 安齋 尚志
アイシステム(株)	代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	桜美林大学	総長 佐藤 東洋士
(株)アシックス	代表取締役会長CEO 尾山 基	大塚化学(株)	特別相談役 大塚 雄二郎

(株) オーディオテクニカ	代表取締役社長	松下 和雄
(公財) オリックス宮内財団	代表理事	宮内 義彦
花王(株)	代表取締役 社長執行役員	澤田 道隆
カシオ計算機(株)	代表取締役社長	樫尾 和宏
キャンノン(株)	代表取締役会長 CEO	御手洗 富士夫
(株) グリーンハウス	代表取締役社長	田沼 千秋
(株) ケイブ	取締役会長	高野 健一
(医) 浩仁会 矢田眼科医院	理事長	矢田 浩二
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛
(株) J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准
(株) 滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳
(株) ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己
ジュエテックホールディングス(株)	代表取締役会長	足立 建一郎
菅波楽器(株)	代表取締役社長	菅波 康郎
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉
ソニー(株)	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男
(株) ソニーミュージックエンタテインメント	代表取締役社長	村松 俊亮
(株) 大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	澤田 太郎
高砂熱学工業(株)	代表取締役社長	小島 和人
(株) タクト	代表取締役	苗代 政治
都築学園グループ	総長	都築 仁子
(株) テクノスジャパン	代表取締役社長	吉岡 隆

東急(株)	取締役社長	高橋 和夫
東京オペラシティビル(株)	代表取締役社長	三和 千之
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣
トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一
トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株) ニチケアパレス	代表取締役	齊藤 正俊
(株) ニフコ	代表取締役社長	山本 利行
日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
(株) パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株) 不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株) プライムステーション	代表取締役	浅田 亨
丸紅(株)	取締役会長	國分 文也
(株) 三井住友銀行	頭取CEO	高島 誠
三菱商事(株)	代表取締役社長	垣内 威彦
三菱倉庫(株)	相談役	宮崎 毅
(株) 三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
(株) 明治	代表取締役社長	松田 克也
森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
(株) 山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
楽天(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
(株) リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

後援会員

欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄
(有) オルテンシア	代表取締役	雨宮 睦美
(医) カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹
(株) 京王エージェンシー	代表取締役社長	大里 公二
(医) だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎
(宗) 東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽
(一社) 凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹

(株) 日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
本田技研工業(株)	代表取締役社長	八郷 隆弘
三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
三菱重工業(株)	取締役社長	泉澤 清次
三菱電機(株)	執行役社長	杉山 武史

ご支援のお願い

2020年3月、東京フィルハーモニー交響楽団は創立109年を迎えました。

1月に新シーズン開幕を迎えた東京フィルは、1月から12月までの一年を通じて、皆様の暮らしと共に響きあう音楽をお届けし、心豊かな社会へと繋ぐ役割を担います。また、定期演奏会や「午後のコンサート」、特別演奏会や提携都市公演ほか多様な音楽活動を通して、国際的に活躍する演奏家や将来を嘱望された若手演奏家らと共に様々な作品に取り組み、より広く多くの皆様にオーケストラの価値を認知いただけるよう尽力いたします。そして、日本の芸術文化発展に寄与すべく、多様化するグローバルな社会において文化交流の架け橋となるよう、より一層努めてまいります。

是非とも皆様方からお力添えを賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

ご寄附会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「賛助会デスク」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた} 鹿文)

電話: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014～2018年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東・東海地区の小中学校36校、のべ16,000名以上の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。

※留学生招待シート、東日本大震災“とどけ心に”特別招待シートは、当面の間ご案内を停止させていただいております。詳細は次ページをご参照ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「東日本大震災」とどけ心に”特別招待シート”として活用させていただいて参りましたが、このたびの新型コロナウイルス感染症拡大防止策の実施に伴い、当面の間、チケット寄附の運用を見合わせとさせていただくことといたしました。再開となりましたら改めてご案内をさせていただきます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

2月定期演奏会のチケットをご寄附いただきました。心より御礼申し上げます。

(五十音順・敬称略)

稲葉順一、佐々木三春、塩澤千代、並木淑子、高橋正好、羽石史生、福田亜紀、藤木乃利子、船久保まゆみ、Hdb、丸山紀子、山下幸徳、和久本雅彦、他、匿名希望20名

2020年3月以降の東京フィル定期演奏会／午後のコンサートのチケットの払戻を辞退することによる東京フィルへのご寄附については、ご希望の方に税控除のための確定申告用の書類（寄附領収証書・税額控除に係る証明書）をお送りしております。税控除に関する詳細は東京フィル事務局・寄附担当 partner@tpo.or.jp までお問合せください。

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【お問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521（平日10時～18時）

Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約130名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 130 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>   



©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

レジデント・コンダクター
Resident Conductor

渡邊 一正
Kazumasa Watanabe

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

柄本 三津子☆
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高木 祐香
Yuuka Takagi

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

津田 好美
Yoshimi Tsuda

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hiroswawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

山内 祐子☆
Yuko Yamanouchi

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

黒沢 誠登
Makoto Kurosawa

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	磯部 保彦◎ Yasuhiro Isobe	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	宮原 真弓 Mayumi Miyahara
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柊一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	今井 彰 Akira Imai	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarians
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	三谷 真紀 Maki Mitani	大東 周 Shu Ohigashi	平田 慎 Shin Hirata	武田 基樹 Motoki Takeda
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai		田場 英子 Eiko Taba		ステージマネージャー Stage Managers
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	チューバ Tubas	
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	チョ・スンホ◎ Sungcho Cho	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	古野 淳 Jun Furuno	荻野 晋 Shin Ogino	大田 淳志 Atsushi Ota
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa		万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	古谷 寛 Hiroshi Furuya
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	フルート Flutes	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto		
	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito		川田 修一◎ Shuichi Kawata	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshiooka	ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	高野 和彦◎ Kazuhiko Takano	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下払 桐子 Kiriko Shimobara	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	重井 吉彦 Yoshihiko Shigei	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
	名雪 裕伸 Hironobu Nayuki	井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa	前田 寛人 Hirohito Maeda	船迫 優子 Yuko Funasako	
		森 純一 Junichi Mori		古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フォアシュペラー
Vorspieler

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		南 直哉
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	岡部 純	河野 啓子	佐野 恭一	長池 陽次郎	細洞 寛
池田 敏美	小樽 敦子	近藤 勉	清水 真佐子	長岡 慎	本田 詩子
糸井 正博	小山 智子	今野 芳雄	瀬尾 勝保	長倉 穰司	松澤 久美子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	齊藤 匠	高岩 紀子	新田 清枝	湊 貞男
岩崎 龍彦	加藤 明広	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	山屋 房子
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 正雄	竹林 良	野仲 啓之助	吉田 啓義
上野 眞行	金崎 真由美	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	玻名城 昌子	米倉 浩喜
生方 正好	川人 洋二	桜木 弘子	田中 千枝	福村 忠雄	脇屋 俊介
大兼久 輝宴	木村 友博	笹 翠	田村 武雄	藤原 勲	
大和田 皓	黒川 正三	佐々木 等	戸坂 恭毅	細川 克己	

〈発行日〉2020(令和2)年6月21日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

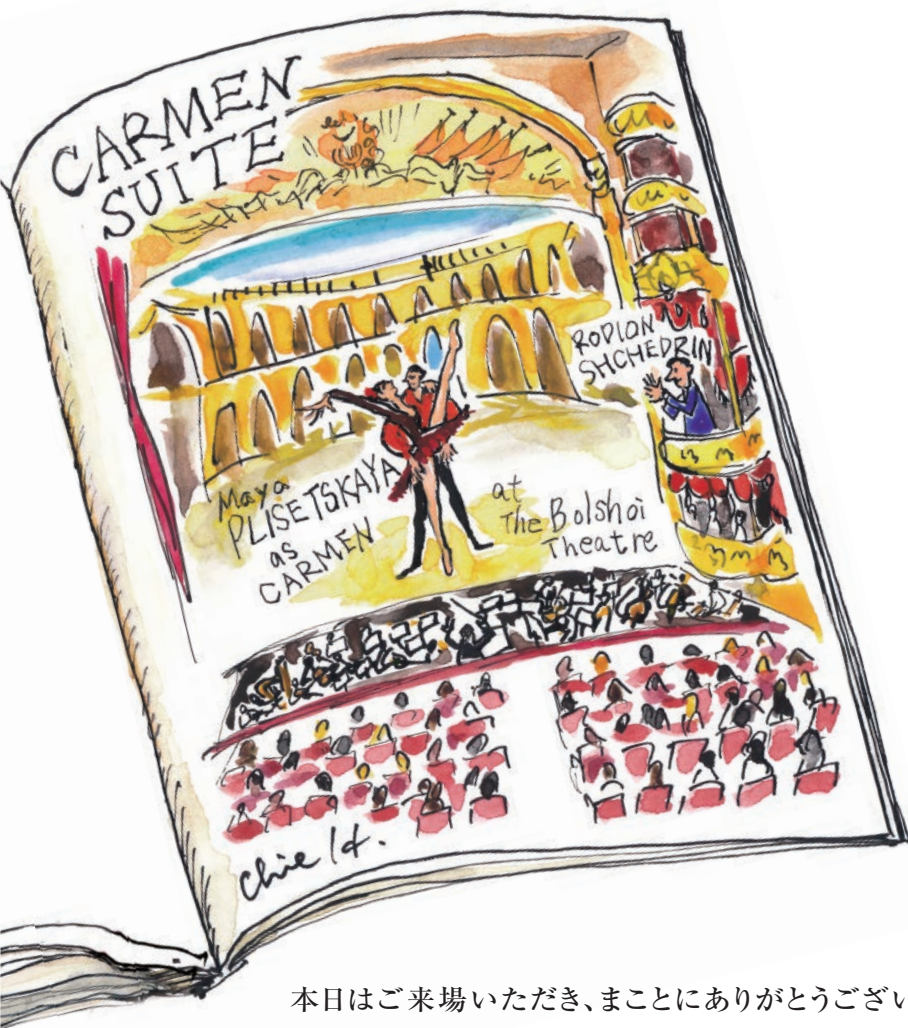
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歐文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)



本日はご来場いただき、まことにありがとうございました。

お気をつけてお帰りください。

またのご来場を心よりお待ちしております。

